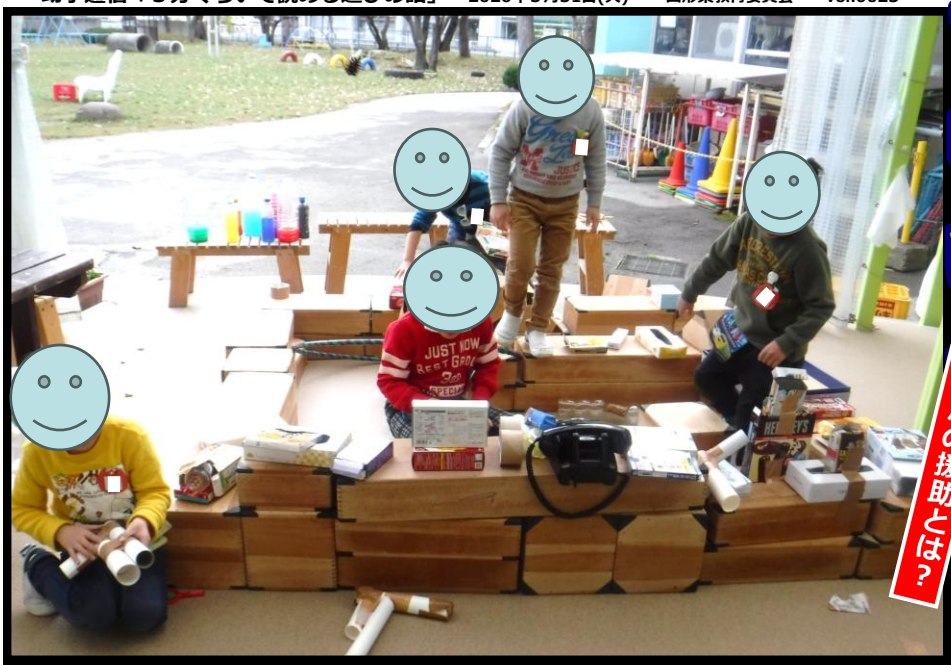
3分くらいで読める遊びの話

子供と創る遊びの拠点

再構成の援助とは？



警察になりきって遊んでいた４歳児。「きちをつくるぞ」と、保育室前のテラスに積み木や電話、製作したパソコンや武器を運び込んだ。すると、すぐに事件の連絡が入る。パトロールから戻り、また次の展開を楽しむ子供達。

本通信の読者の方々から、いつも大変貴重なご意見やご感想をお寄せいただいています。前号では「遊びを援助するポイントを教えてほしい」というお声を頂戴しました。

援助に関することについては、これまで刊行した本通信の中でも、例えば「子供が自由に持ち運べる道具はどのように整備されているか」「子供が道具を自由に使い、たっぷり試行錯誤できる時間は、十分確保されているか」「目の前の子供の遊びの面白さを話題にし合える職員の風土づくりはどのように工夫しているか」などについて、折に触れて紹介してきました。

忍者ヒーローになりきっていた４歳児がマント（風呂敷やカラーポリ袋）をまとって園庭に出ると、サッカーゴール（緑色）を運び始めた。これを「忍者のおうちにする」と言うので保育者が屋根（黒い畑シート）を提案。

個々の興味に基づいた遊びを丁寧に援助していくことが、しっかりと保育の中心に据えられている園に伺うと、そこには、園庭、室内、どこを見渡してみても、**魅力的な拠点**がいくつも広がっています。**遊びの拠点**は、初めからそこにあったものだけでつくられているわけではありません。今日一日の間に、または数日かけて、子供たちが遊びながら再構成を繰り返してきた場なのです。遊びのプロセスの重要性については、本通信７号においても紹介してきました。その子の興味に寄り添い、やることを共に面白がりながら、その子の遊びの拠点を一緒に創っていくという援助を、試みてみるのはいかがでしょうか。布が敷かれ、ビールケースが運ばれ、やがて木の下には魔女の家。いつもの遊具はお店屋に変身。その子にとっての遊びの拠点について保育者同士で語り合うことは、子供理解を深め、援助や環境の見直しのポイントを探るきっかけとなるはずです。

３歳児クラスの病院屋さん。点滴につながれてただいま手術中。まもなくすると、かわいい赤ちゃんが生まれ（ぬいぐるみ）、大騒ぎ。離乳食づくりが始まった。大きな布や敷物など、扱いやすい道具が常備されている。

発行元お問合せ先　山形県教育局義務教育課
☎023-630-3416　kuraokat@pref.yamagata.jp
※１：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用